図書室だより

◀新刊本情報はこちら

森の子ども図書 No.239

かんぺきなこども

作：ミカエル・エスコフィエ

マカロン夫婦のところにピエールという完璧な子どもがやってきます。お行儀良くご飯を食べ、おもちゃで遊んでも散らかしません。ピエールはいつもおおらかで、完璧な子どもに見えたのですが…。

今月のおすすめの２冊はこちら

毎日おみそ汁365日

えちごいち味噌／自由国民社

パパっと時短！ほっとする定番から食べるおかず系、ごちそうの一杯まで毎日役立つ365レシピ！お料理が苦手でも、時間がなくても大丈夫。調理工程も簡単。美味しくて、健康的、見た目も楽しめる。日々のマンネリ献立のお助けとなるアイディアが満載。

人生を変えたコント

せいや（霜降り明星）／ワニブックス

ある日、登校すると机がひっくり返っていた。いじめは急に始まった。それでも高校は休まなかった。文劇祭のクラスの出し物で自作のコントを披露し、一発逆転した。「どん底から這い上がった人の方が絶対に強い！」笑いに救われた日々がリアルに綴られている。

任期満了にともなうご挨拶

地域おこし協力隊　池田（いけだ）　達哉（たつや）

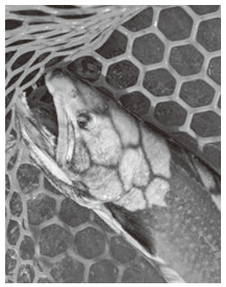
◀日々の活動はこちら

金山町 地域おこし協力隊

皆さんこんにちは。有屋の「いわなや」の事業承継を行った協力隊3年目の池田です。私は令和8年1月末をもって、金山町地域おこし協力隊の任期満了となり、この場を借りて退任の挨拶とさせていただきたいと思います。

令和5年2月に金山町へ地域おこし協力隊として、赴任してから、金山町の皆さんから多くのご支援とご協力をいただき、心から感謝しています。皆さんとの出会いやお付き合いを通じて多くの学びとご縁をいただいたこと、大変嬉しく感じています。本当にありがとうございました。

3年間の活動実績としては、「イワナ・ヤマメの養殖技術の承継と加工・販売」、「町内飲食店やホテルシェーネスハイム金山とのメニュー開発と提供」「セラピーファームめごたまとの連携」「各種マルシェへの参加、自主企画イベントの開催」、「町内釣り堀『神室フィッシャーマンズロッジ』の開設」を行うことができました。釣り堀については、令和6年のグランドオープン以来、令和7年10月末時点で全国から延べ3,800名ほどの来店をいただき、年末までに4,200名を集客することで、金山町を知っていただき、地域観光の活性化に少しでも役立ちたいと考えています。一方で、山形県のご当地サーモン「ニジザクラ」の導入については、県水産課との調整と導入もハードルが高く、ミッション未達となりました。来年以降、引き続き、導入に向けて協議を進めて行きたいと思います。退任まで残りわずかではありますが、最後まで地域に貢献できるように取り組んでいきます。



▶イワナ。背はオリーブや黒褐色（こっかっしょく）で体の側面に白色の小さな斑点（はんてん）模様（もよう）がある

▶虹鱒（にじます）。銀白色（ぎんはくしょく）やオリーブ色の体の側面に沿って赤紫（あかむらさき）の帯状の模様と、体全体に黒色の小さな斑点（はんてん）模様（もよう）がある

東京金山会通信

No.80　令和７年度をふりかえる

【問合せ】　東京金山会 広報担当　藤山善夫　☎080-5525-0435

今年も首都圏に住んでいる金山町ゆかりの皆さんが「ふるさとを思い続ける場」として、年間を通じた交流活動に取り組みました。

6月に開催した第66回総会・「ふるさとを語る集い」では、計124名が参加し、佐藤英司町長をはじめ、町関係者や来賓の皆さんをお迎えして盛大に開催することができました。懇親会ステージでは、永山茂樹さんの歌唱、多田聡さん・多田有希さんご夫妻による音楽演奏、國分さえ子・リリィさんによる三線演奏が披露され、会場はあたたかな拍手に包まれました。また、第14回観光映像大賞で観光庁長官賞を受賞した町制施行100周年記念映像「金山の道、百年の光。」を上映し、金山町の風景と歩みを共有する時間となりました。

毎月第4土曜日に開催している「かねやま市」では、落花生製品や焼き豆腐、ごぼうたたきなど、金山町ならではの味を首都圏へ届け続けています。今年は新たに「玉こんにゃく」の販売を開始したほか、夏季には「ラムネ」の提供も行いました。回を重ねるごとに、常連の来場者が増え、ふるさとの味を楽しみに足を運んでくださる方の輪が着実に広がっていることを実感しています。

また、9月には「山形県人東京連合会 総会・県人まつり」に参加し、最上地域のふるさと会として運営にも携わりました。他の地域との連携を深めることで、金山町の魅力を県内外へ発信する基盤がより強まった一年でした。

❶「かねやま市」での物販の様子。金山産の新鮮な野菜や美味しい加工品が販売された
❷第66回総会「ふるさとを語る集い」での一枚。佐藤英司町長を囲む出席者の皆さん

ぶんぱい

金山杉俳句会　第五〇五回

雨止みて錦秋の山目に眩し
秋色に染まりし町の水の音　阿部　一代

漆葉（うるしば）の赤に振り向く雨上り
グラゴル（グランドゴルフ）の球の行く先秋の空　星川　キエ子

止めどなく散る木の葉のプラタナス
行く秋を惜しむ気持ちや散歩道　高橋　洋子

秋冷の夕焼けに浮かぶ山（高金山）の峰
無人台売り場せましと秋野菜　岸　昭子

山裾に夕日分けあひ蕎麦の花
北からの客を迎えて芋煮鍋　鵜沼　よし子

冬紅葉哀しきほどの落暉浴び
黄の火花紅蓮の綿紅葉峪　栗田　弥超

かねやま紅風会

秋立や普通の暮らし祈る日々
みそ萩の風にゆられて軒の下
静けさや声無き夫（つま）と秋の月　荒屋　阿部　勝子

里芋や秋の時雨るる日の或（あ）らじ
友と逢ふ秋晴れ願う恋心
藪草に紫式部顔を出し　荒屋　関　喜美子

冬近し時雨るる合間の虹の橋
刈田後村は静かに山眠る
秋晴の囲ひを急ぐ狭庭かな　菅越　庄司　けみ子

秋の暮（くれ）口紅ほどの陽ざしかな
秋天や湖面につづく風の径（みち）
薄紅葉気遣（きづか）ぬふりの想いやり　七日町　青柳　キエ子

秋日差し夫婦（めおと）絆の赤トンボ
遠き日の思い出巡り年暮れる
身の丈を孫に越されて手を伸ばす　上台　阿部　一歩